

本事例の基礎データ

カテゴリ	文字入力（タイピング）に関する指導方法		
学校種	肢体不自由	事例提供者	東京都立光明学園
学年	高等部3学年	教科等	自立活動
単元（題材）名	書字指導		
主な ICT 機器	<ul style="list-style-type: none"> ・ P C（Windows10） ・ トラックボール（マウスクリック用外部入力端子付き） ・ 外部スイッチ（障害の状態に合わせて） 		
ワンポイント	肢体不自由のある生徒が、自立活動にて自分の力で文字入力を行い、様々な学習の場面で活用する。		
「情報活用能力 #東京モデル」 の位置付け	基本的操作	STEP 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーボードで文字入力ができる ・ 入力モード切替、数値入力、ローマ字入力 ・ オフィス系アプリケーションを選択・操作できる ・ 日本語ワープロソフト、プレゼンテーションソフト、ビジュアル型プログラミング言語

本事例における教育の情報化について

【ポイント1】	<p>● Windows10 のオンスクリーン・キーボードの活用</p> <p>特別なソフトを使用せず、Windows10 に標準搭載されている機能を使うことで、使う場面や端末を選ばずに様々な授業で活用できる。</p>
【ポイント2】	<p>● 障害に合わせたポインティング・デバイスの活用</p> <p>障害の状態に応じて適切なポインティング・デバイスを選択できるよう多様な支援機器を用意し、誰でも外部スイッチにより入力できる環境を構築した。</p>
【ポイント3】	<p>● 障害に合わせた外部スイッチの活用</p> <p>使う身体の部位や障害の状態に応じてスイッチを慎重に選択する。長時間かつ回数の多い操作であることを考慮して、外部専門家とともに検討できるようにした。</p>

授業の実際

【ポイント1】 ● オンスクリーン・キーボードの活用



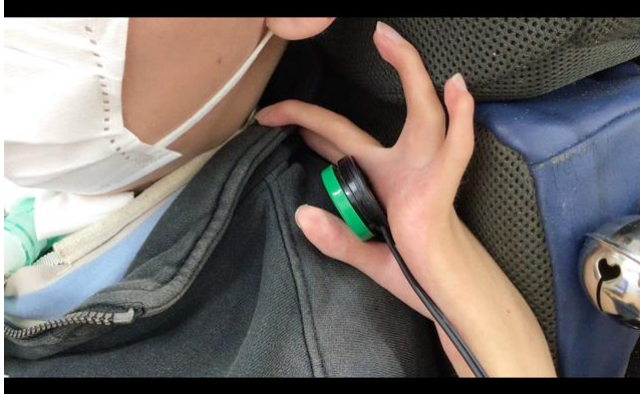
日本語に加えて、アルファベット、数字、記号を全角／半角を指定して入力することが可能である。英語や数学、理科などの授業でもノートテイクが可能になる。

【ポイント2】 ● 障害者向けポインティング・デバイスの活用



本人の障害の状態に応じて、扱いやすいポインティング・デバイスを使えるよう、必要に応じて加工を行い、外部スイッチを接続できるようにした。

【ポイント3】 ● 障害者用スイッチの使用



軽量で動作圧の小さい押しボタンスイッチを選択することで、一日を通してパソコンを使った書字を行っても、疲れや痛みが生じることがなかった。